

熊本県内の被災した地域の状況について

神田公司

熊本県学童保育連絡協議会・会長

二〇一六年四月に発生した「平成二八年熊本地震」から二か月半が経ちました。四月一四日夜と一六日未明の二度にわたって震度七という大きな地震が発生し、いまま余震が続いています。二〇一六年六月二十七日現在で推算すると、これまでに一八〇七回の地震が起きています。今回の地震の大きな特徴は余震の多さにあり、「震度三以上の地震は約一〇〇年分経験している」とも言われています。

熊本県内では、益城町、熊本市、御船町、西原村、嘉島町、甲佐町、南阿蘇村、宇土市、宇城市を中心に、多くの学童保育所やそこに通う子どもたち、指導員も被災しました。

熊本県学童保育連絡協議会（以下、県連協）では、すぐに被災した地域に赴き、被災の状況の把握や支援の要望

などについて調査を行ってきました。同時に、各学童保育所に、子どもたちが室内で遊ぶためのゲームや、全国各地から送られたぬり絵、ノート、鉛筆、絵本などを、ニーズにあわせて届けています。

現在も、被災した地域の学校が避難所になっていることもあり、多くの学童保育所ではそれまで使用していた空き教室などが使えず、狭いスペースで子どもたちが生活しています。

こうした現状をふまえ、県連協は、二〇一六年五月二十七日には熊本県知事に、「仮設の学童保育所の設置をはじめとするスペースの確保」「被災した学童保育所の修理の公的負担」「失職などをした保護者に対する保育料の減免措置」「震災後の『心のケア』の取り組み」を要望しました。さらに六月

八日には、厚生労働大臣に同様の要望を届けました。

これらの要望をふまえて、益城町など三か所で仮設の学童保育所がつくられることとなり、現在、熊本県とNGO、県連協の三者で協議を進めています。その際、備品の準備などに、全国の皆さんから送られた募金を活用したいと考えています。また、依然としてつづく地震から生じる恐怖に対する「心のケア」についても、NGOの協力をいただき、研修会などを行っています。

今後とも、このたびの地震で被災した学童保育所や子どもたち、指導員への支援を、心からお願ひします。

* * *

「平成28年熊本地震 学童保育支援募金」にぜひご協力ください

全国学童保育連絡協議会 会長 木田保男

全国学童保育連絡協議会は、現在、「平成28年熊本地震 学童保育支援募金」への協力を呼びかけています。この募金は、熊本県・大分県の学童保育連絡協議会と相談のうえ、今回の地震で被害を受けた地域の学童保育指導員と保護者をはげまし、子どもたちの安全と安心を保障する学童保育づくりのための支援として、具体的には、つぎのような取り組みに活用していく予定です。

- ① 学童保育施設の再建・補修や必要な備品などへの支援
- ② 学童保育の運営費への補助
- ③ 研修・相談活動など指導員への支援
- ④ 学童保育の拡充を支える体制づくりのため、被災した地域の学童保育連絡協議会等に対する支援

お寄せいただいた募金は、熊本県・大分県の学童保育連絡協議会それぞれに必要とされる額をお届けします（なお、最終的に募金残高が生じた場合には、「東日本大震災 学童保育募金」に繰り入れさせていただきます）。ぜひとも広く学童保育関係者の皆さんに、募金へのご協力の呼びかけをお願いいたします。

平成28年熊本地震 学童保育支援募金の振込先

・みずほ銀行
（銀行コード：0001）
・本郷支店
（店番：075）
・普通預金 4022450
・名義：
全国学童保育
連絡協議会